

## 「オフフェンス」と「ディフェンス」

私たち教師に「けんすい」があるのを知っていますか。鉄棒でやる「懸垂」ではないですよ。「研推」です。正式には「研究推進委員会」と言います。教師にとって最も大切な授業をより良いものにしようと、私たち教師は日々授業の研究をしています。

研究授業が毎年行われますね。「僕たちは研究材料か」と幼い頃の私はよく思っていました。皆さんはそう思ったことはありませんか。研究授業では、生徒ではなく、授業を研究しています。したがって、研究授業の時には、生徒はいつも通り授業に臨めばよいのです。最近では、生徒がどこにつまずいていて、それを解決するために、どんな手立てを準備して授業を進めていくかを研究しています。生徒一人一人の理解度やこれまでにつけた力は当然異なります。したがって、わからないことをわからないと言ってもらえると、教師は本当に助かります。「こういうことにつまづいているんだな。だったら、こういう手立てを準備しないと……。」というように、研究がはかどります。ひいては、それが生徒にとってもプラスになるのです。

私たち教師だけでなく、生徒の皆さんも授業を充実させようと頑張っていますね。拳手発言に意欲的に取り組んだり、教え合いや交流を積極的に行ったりしていますね。タブレットを使うことも日常的になってきていますし、今後その使い方も開発されてますます授業がおもしろくなるでしょう。

ところで、授業を充実させるだけで、生徒の皆さんにめきめき力がつくのでしょうか。そうとは言えないと、私は考えています。

生徒にとっても教師にとっても、授業を充実させるということは、スポーツのオフフェンス（攻撃）にあたります。身に付けたい、身に付けさせたいという前向きな気もちが表れた部分です。言い換えると、得点したい、得点させたいということですね。オフフェンスを鍛えれば、得点力の高いチームになるはずですよ。

しかし、得点力がアップしても、得点以上の失点があれば、勝つことはできません。ここまで書くと、何が必要かわかりますよね。そうです。ディフェンス（守備）です。つまり、守るということです。オフフェンスで得た以上の点を、相手に取られないようにすることです。

学習には対戦相手はいませんが、いるとすれば、授業後の自分でしょうね。授業中に理解できたことやできたことを、もう一度やってみてわかるのか、できるのかを確かめることが必要です。授業中はできたけど、後でやってみたらできなかった、やり方を忘れてしまった……これでは大量失点したことと同じで、負け確定です。

そうならないために必要なのが、家庭学習です。授業というオフフェンスだけががんばって、家庭学習というディフェンスを頑張らなければ、結果は目に見えています。四番バッターばかりを集めても試合で勝てないのは、こういう理由からです。あなたは、ディフェンスを十分練習していますか。